

みちまちウィーク2012 in せせしま

STREET AND TOWN COMMUNICATION WEEK

【結果報告】



平成 25 年 2 月

名古屋市住宅都市局交通企画課

目次

1. 開催概要	1
2. セグウェイ走行体験	2
3. オープンカフェ	6
4. みちまちひろば	10
5. その他関連イベント	11
6. その他（イベントアンケート結果）	12

1. 開催概要

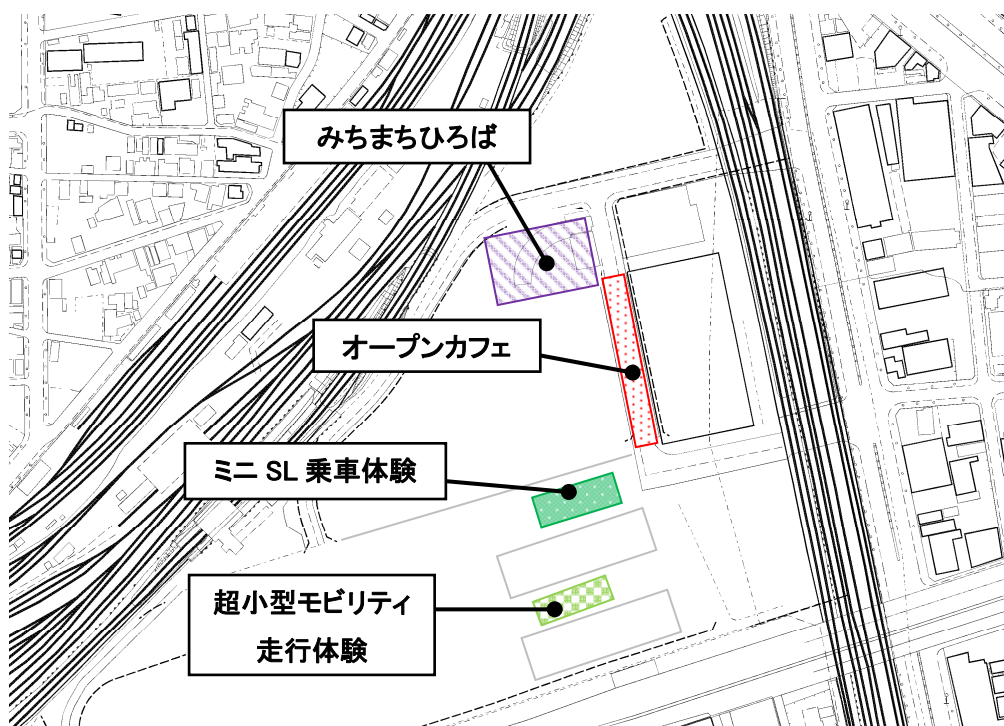
(1) 開催目的

本市は、平成 23 年 9 月に策定した「なごや新交通戦略推進プラン」で掲げるリーディング・プロジェクト「みちまちづくり」の実現に向け、新たな交通施策の実証実験や「まちと交通」について考える機会を設け、広く市民の意識を変える社会啓発の場として「みちまちウィーク」と称する交通イベントを実施しています。

本年度は、ささしまライブ 24 地区において、将来の公道走行が期待される超小型モビリティ（セグウェイ）の走行体験や地区内の一部車道通行止めによるオープンカフェの実施により、将来のまちの姿を市民に提案するイベントとしました。また地区内の事業者とも連携して実施しました。

(2) 開催概要

- ・ 名称 みちまちウィーク 2012 in ささしま
- ・ 日時 平成 24 年 10 月 27 日（土）、28 日（日） 10:00~17:00
- ・ 場所 ささしまライブ 24 地区（中村区平池町 4 丁目他）
- ・ プログラム ①超小型モビリティ（セグウェイ）の走行体験
 ②オープンカフェ
 ③みちまちひろば
 ④ミニ SL 乗車体験
 ⑤公共交通エコポイント
 ⑥JICA コラボメニュー提供
 ⑦クーポン配布



2. セグウェイ走行体験

(1) プログラム概要

超小型モビリティは、開発途上の乗り物ですが、将来の移動手段の1つとして期待されています。セグウェイなどの立ち乗り型超小型モビリティは公道での使用は認められておらず、市民にとってはまだ馴染みの薄いものですが、つくば市や豊田市ではその実証実験が既に行われています。本市においても、将来の利用を見据え、実際の体験を通じて、認知度や利用意向、操作性、安全性などについての意見を集約しました。

項目	内容
日時	10月27日(土)・28日(日) 2日間 10:00~17:00
会場	愛知大学キャンパスモール内
体験ゾーン	2ブース(6×12m 程度)
定員	1人あたり6分、1時間当たり12名、1日当たり72名(延べ144名) ・但し、安全な運転を確保するため、セグウェイの利用規定等に基づき、次のような参加条件を設定 【参加条件】 ・年齢 16 歳以上 ・体重 45kg 以上、118kg 未満 ・1人で乗り降りできること ・妊娠、飲酒、ケガ、病気をしていないこと ・日本語を理解できること ・ヒールのある靴、踵の高い靴、またはサンダル履きの場合、専用シューズに履き替えること ・ヘルメットを装着すること ・スタッフの指示に従うこと
体験時間	10:00、11:00、13:00、14:00、15:00、16:00 (12:00~13:00 は休止、17:00 終了) ・各開始時間の 10 分前より受付開始、応募多数の場合は抽選 ・体験前に同意書を記入 ・体験後、全員にアンケートへの回答を依頼
基本的な体験内容	乗り方(重心の取り方)、直進、方向転換、転回、降り方 走行モードは Max6km/h に設定
参加費	無料
主催	名古屋市と名古屋大学森川・山本・三輪研究室との共同実施
運営	受付:市職員 誘導:市職員、スペーシア インストラクター:名古屋大学ほか

(2) 実施状況

- ・ 27 日は開始当初、定員に余裕がありましたが、午後は定員枠を超過する回もあり、抽選も実施しました。28 日は、愛知大学オープンキャンパス（高校生向け）や駅ちかウォーキング参加者等の立ち寄りがあり、午前から大勢の方が応募したため、抽選を実施しました。
- ・ 当初予定していたタイムスケジュールよりも、スムーズに入替ができたため、想定人数に余裕ができ、定員外の参加も受け付けたことで、延べ 161 名の参加となりました。
- ・ 参加者は、大学生・高校生など若い世代が多く、10～20 歳代が 5 割強でしたが、70 歳以上まで、各年代に幅広く参加していただきました。市外からの参加者も 4 割強ありました。

	27 日	28 日	合計
参加者数	75 名	86 名	161 名



受付



抽選待ちの列



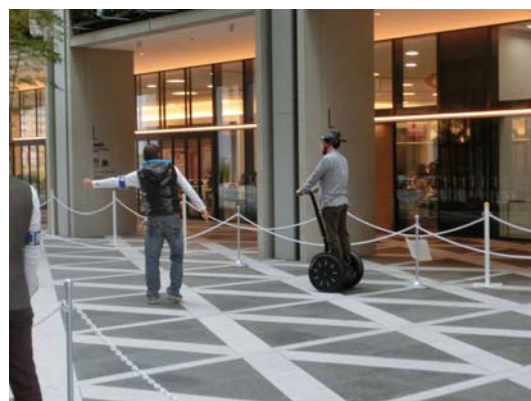
待機場所



待機場所



体験

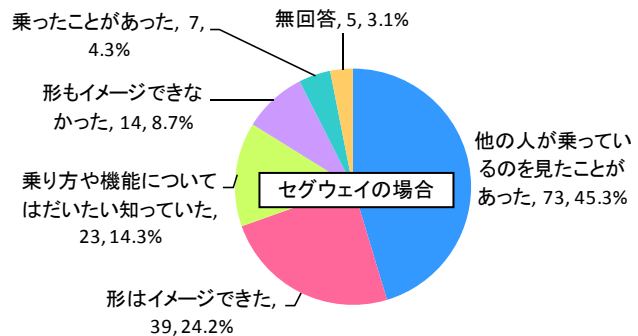


体験

(3) アンケート結果

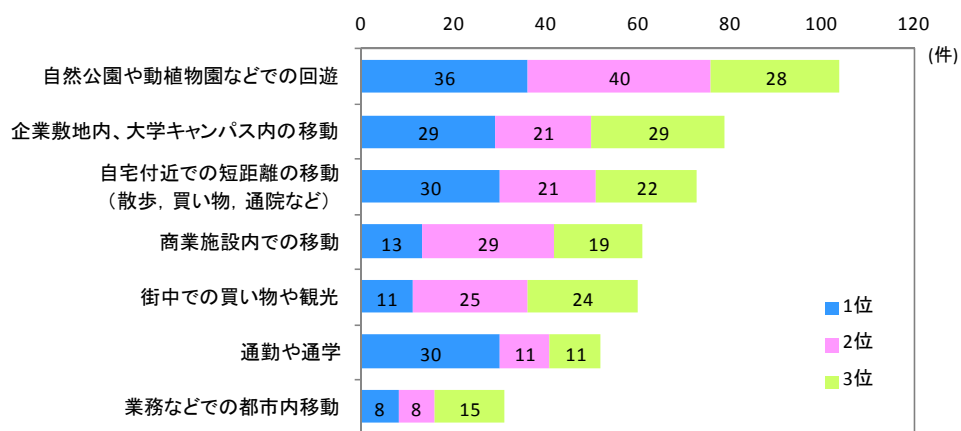
①超小型モビリティに対する事前の知識や経験

・セグウェイは9割程度の認知度でしたが、i-unit や wingleet については、半数以上の人々が形もイメージできなかったと回答しています。



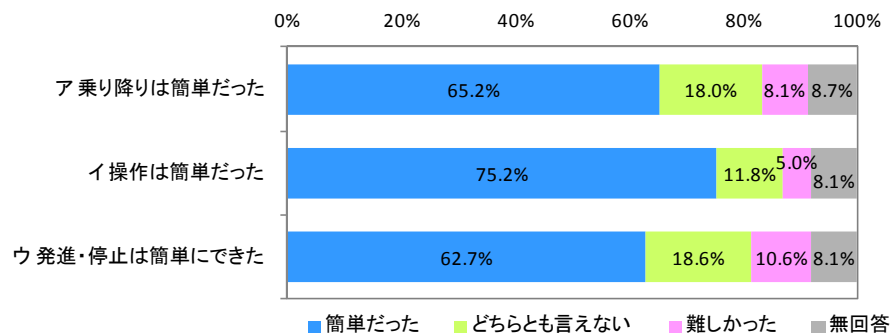
②利用したいシーン

・利用したいシーンは、動植物園など特定の大規模敷地内の移動が上位にあげられました。



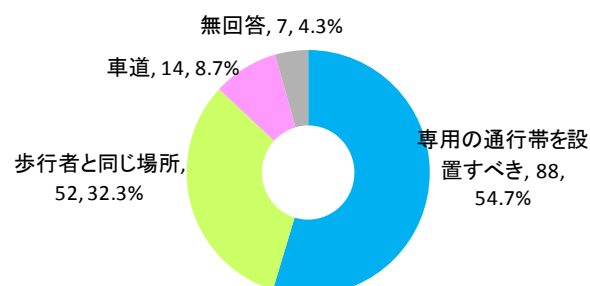
③操作性

・セグウェイの操作性は、年齢に関係なく多くの参加者が簡単だったと回答しました。



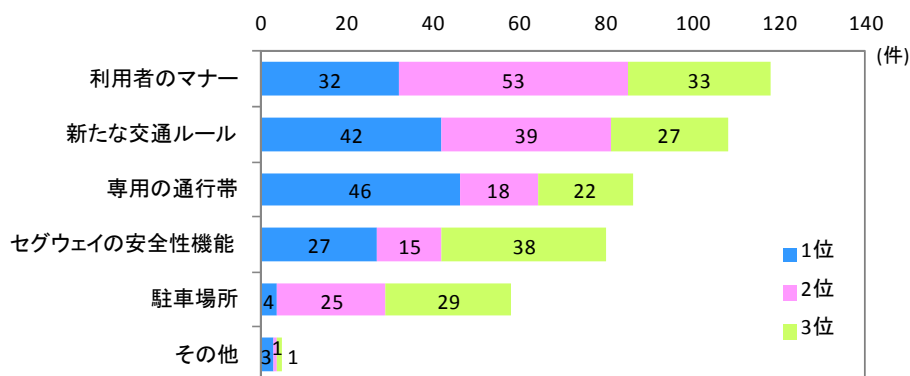
④どこを走行するべきか

・参加者の半数以上は「専用の通行帯を設置すべき」と回答し、次点では「歩行者と同じ場所」でした。「車道」という回答は1割にも達しませんでした。



⑤街中で広く利用されるために必要なこと

・新しい乗り物ということもあり、マナーやルールが必要という回答が多くあげられました。



（４）走行体験の成果と導入に向けた課題

- ・平成24年6月に国交省が策定した超小型モビリティの導入ガイドラインでは、先行して2人乗り程度の三、四輪自動車について保安基準の緩和等を示すとともに、認定制度を活用することが示されましたが、今回走行体験を実施した立ち乗り型PM（パーソナルモビリティ）については、まだ検証継続の必要があるとされています。
- ・本市においても、自動車利用の適正化と徒歩・自転車・公共交通を中心とした交通体系をめざす中で、セグウェイのような新しい交通手段をどのように位置付けるのか、国の実験結果も参考にしつつ、普及啓発や社会実験などを展開しながら、走行環境、自転車とのすみ分け、シェアリングのあり方等の検討・検証をしていき、また他都市の実証実験の成果を周知していく必要があります。
- ・社会的需要（街なかに受け入れられるか）については、今回の走行体験を受けて、一定の需要はあるものの、利用シーンとしては特定の場所での需要が高いことがわかりました。
- ・高齢者の移動サポートとしての役割については、操作が簡単であったということもあり、受け入れられそうと言えます。

3. オープンカフェ

(1) プログラム概要

ささしま地区内の事業者と連携し、イベント全体が盛り上がるような仕掛けとして、地区内道路を車両通行止めにし、オープンカフェを設置することでにぎわいを演出しました。同時に、交通まちづくりプランで掲げるみちまちづくりの見える化を図ることを目的としました。

項目	内容
実施日	10月27日(土)・28日(日) 2日間 ※実際には、27日(土)のみ実施。28日(日)は雨のため中止。
時間帯	車両通行止め 12:00～17:00 オープンカフェ 12:30～16:30(前後30分程度は設営・撤去)
会場	ラ・バーモささしま西側道路(市道 ささしまライブ24第2号線) オープンカフェ実施区間延長約100m
交通規制	・フェンスを3ヶ所に設置して車両通行止めを実施すると同時に、警備員を各所に配置し、自動車・自転車・歩行者の通行誘導を行う。 ・車両通行止め区間内は歩行者天国とし、歩行者は通行自由。自転車の通行は禁止。 ・地区内に来訪する車両の迂回路を設ける。
設営	・通行止め区間内車道上にベンチ等を10カ所設置し、自由に利用してもらう。 ・テーブルセット(テーブル、ベンチ、パラソル)×5セット ・背無しベンチ×5台 ・テーブルセット、ベンチには通行規制解除(オープンカフェ終了)時刻を記したサインを設置。記載文→『17:00に交通規制解除のためオープンカフェのご利用は16:30までとさせていただきます。(その後、撤去いたします)』



都心みちまちづくりパッケージのイメージ
(出典：なごや新交通戦略推進プラン)

(2) 会場レイアウト（交通規制）



通行規制フェンス

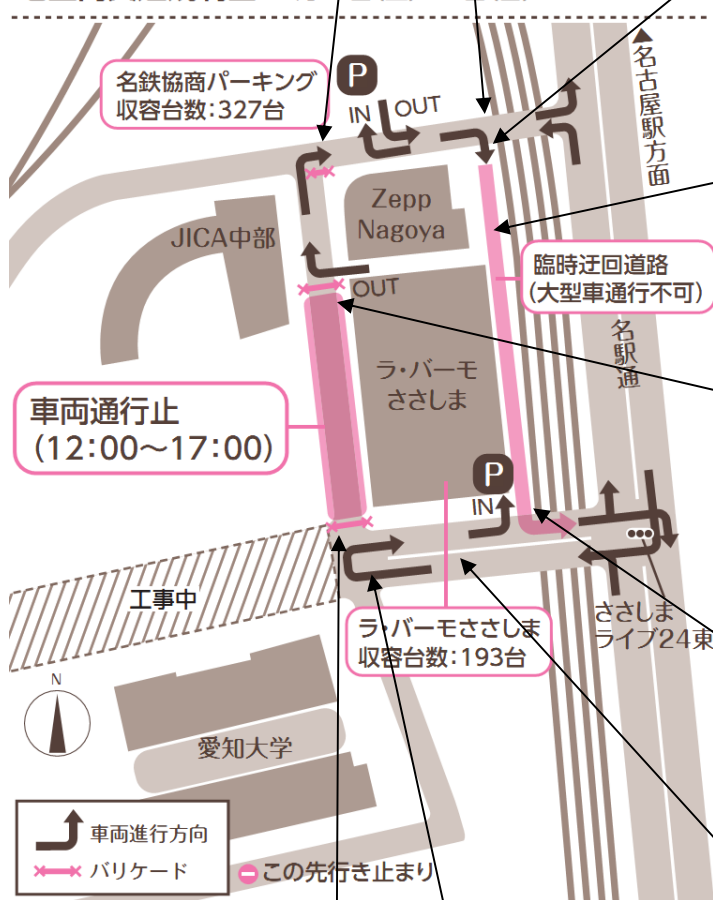


迂回路への誘導看板



迂回路（進入口）

地区内交通規制図 10月27日(土)・28日(日) 12:00~17:00



迂回路



通行規制フェンス



迂回路出口



通行規制フェンス



通行誘導カラーコーン



通行誘導矢印板

▼交通誘導看板



ラバーモささしま南西角交差点



ZeppNagoya 北西角交差点



名駅通からの進入口（北側）



名駅通からの進入口（南側）

（３）実施状況

<27 日>

- ・ 開始から間もなくは、歩行者通行量もそれほど多くはなく、また突然現れた空間に歩行者側に戸惑いや利用への躊躇があったのか、すぐには利用は進みませんでした。その後、チラシを配布し周知に努めた効果もあり、徐々に利用が進み、14 時台には 6～7 割方のテーブル、ベンチが利用されるようになりました。そして、15 時以降はほぼ全てのテーブル、ベンチが利用されました。
- ・ 利用方法としては、ファミリーや友人連れ、個人などの休憩・軽い飲食・おしゃべり、周辺施設従業員の遅めのランチ、読書、スマートフォン、Zepp Nagoya で行われるライブへ行くグループの開場待ちなどがみられました。男女問わず利用され、とくに若者層の利用が目立ちました。
- ・ オープンカフェを実施してわかった課題として車道への誘導方策が挙げられます。今回利用した区間では、植栽帯やガードパイプがほとんど切れ目なく続いていました。そのため、歩道から車道にスムーズに出られる箇所はそれらの切れ目しかなく、誘導の大きな障害になったと考えられます。

<28 日>

- ・ 午前 11 時の時点で降雨が激しく、その後止む確率も低いと判断し、中止としました。

▼15 時台



▼16 時台



(4) ヒアリング結果

オープンカフェ等に参加した市民を対象に都心のまちづくりに関するヒアリングを「賛成・反対ボード」を使って実施しました。広い道路を歩行者専用にするに対しては約 78%が賛成を示し、市民は概ね好意的に考えていることがわかりました。

		賛成	反対	どちらでもない	合計
広い道路を 歩行者専用にする	27 日	68	11	6	85
	28 日	39	14	0	53
	合 計	107 (78%)	25 (18%)	6 (4%)	138 (100%)



4. みちまちひろば

(1) プログラム概要

「まちと交通」をテーマとした講演会とパネル展を、地区内のＪＩＣＡ中部２階のセミナールームにて実施しました。市民が交通政策とまちづくりに興味を持ち、人や環境にやさしい移動などについて考えるきっかけを提供するとともに、ＪＩＣＡの発展途上国における鉄道インフラの整備をはじめとした活動内容のＰＲを目的に実施しました。

項目	内 容
プログラム	<27 日(土)> 10:00～17:00 パネル展「鉄道物語～ニッポンから世界へ～」 13:40～15:10 JICA 特別講演「鉄道がつくる魅力的な都市“海外鉄道の現場から”」(講演: JICA 経済基盤開発部) <28 日(日)> 10:00～17:00 パネル展「都心のにぎわい～世界の都心から～」 14:00～ 名古屋市講演「みちまちづくりの実現に向けて」(講演: 名古屋市交通企画課)
会場	JICA中部2階セミナールーム
参加	定員 40 名(講演のみ) ・事前申し込み不要、参加費無料 パネル展は講演の時間帯を除いて、自由に見学可能
ほか	・パネル展のアンケートに協力した方へ抽選で景品を進呈 ・講演後にアンケートへ協力した方へプレゼントを進呈



JICA 特別講演



パネル展

5. その他関連イベント

(1) ミニSL乗車体験

鉄道に囲まれたささしま地区において、子どもにも鉄道に親しんでもらうため、名古屋工業大学鉄道研究会の協力を得て、ミニSL乗車体験を実施しました。

体験乗者数は15名程度で、親子を中心に乗車を楽しんでもらうことができました。開始当初は機材のセッティングなどに手間取り、乗車をあきらめた人もいました。



(2) 公共交通エコポイント

会場へのアクセスをはじめ、公共交通の利用促進や自動車から公共交通への利用転換を図ることを目的に、交通エコポンを設置し、IC乗車券等でタッチするとエコポイントがもらえるキャンペーンを実施しました。



	愛知大学		ボーナスポイント	
	人数	交付ポイント (エコポン)	人数	交付ポイント (エコポン)
27日	79	79	23	230
28日	34	34	10	100
計	113	113	33	330

(3) JICA コラボメニュー

JICA中部1階のカフェクロスロードでは、「みちまちウィーク コラボメニュー」として昼の営業では提供していないメニューを販売しました。



(4) テナントクーポンの配布

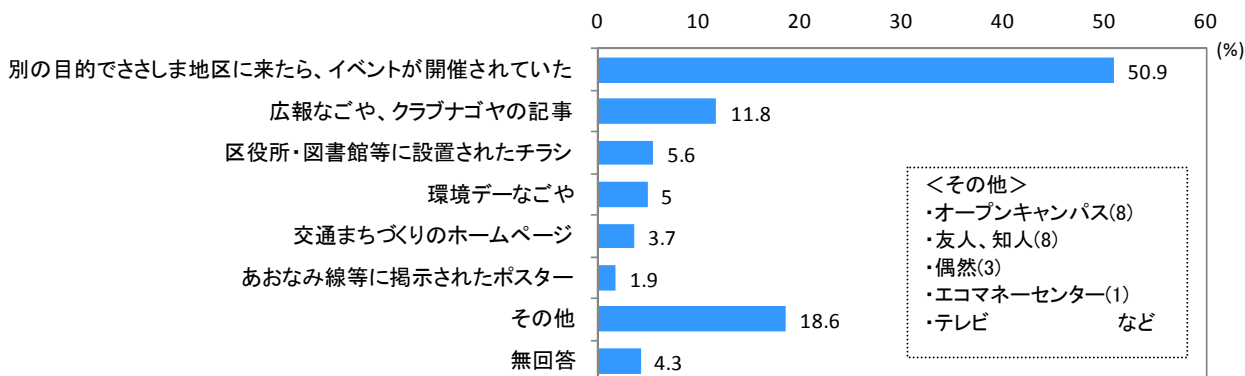
ラ・バーモささしまのスタッフが会場にて、ラ・バーモ内各店舗で割引利用可能なクーポンを配布しました。



6. その他（イベントアンケート結果）

（１）このイベントを何で知りましたか

- ・半数の人がささしま地区へ来てたまたまイベントを知って参加しました。特に 28 日は雨天にも関わらず、愛知大学主催のオープンキャンパスと交通局主催の駅ちかウォーキングが開催されたため、その立ち寄りで参加した人が多かったと思われます。
- ・しかし、全体の約 3 割の方は広報等を受けて来場しており、広報による一定の効果はあったといえるものの、集客のための一層の取組みが必要といえます。



（２）みちまちウィークについての感想

- ・楽しかった。とてもよい取組みだと思う。
- ・知らないことを知ることができるのでよかった。とてもためになった。
- ・体験することによってまちづくりを考えるというのは、とても素敵な試みだと思います。
- ・今後も規模を広げながら続けてほしい。
- ・いろいろを形を変えながらもつながりのあるイベントとして普及していくとよい。
- ・もっと告知、宣伝をして、多くの人に参加してもらったほうがよかった。
- ・イベント会場が分かりづらかった。
- ・もう少しにぎわいがあるとよかった。

（※セグウェイ走行体験アンケート結果より）

みちまちウィーク2012

STREET AND TOWN COMMUNICATION WEEK

in ささしま

2012年
10月27日(土)
28日(日)
10:00~17:00

ささしまライブ24

名古屋市守山区平池町 (国際・交流・知のステージ)

主催 名古屋市住宅都市局交通企画課

JICA中部

- 「なごや地球ひろば」で、世界の食や暮らしを体験しよう。

みちまちひろば

- 2階セミナールームでは、鉄道や交通にちなんだパネル展示や講演会を開催。
- 1階カフェでは、2日間限定のメニューがあるよ。

交通エコポ

カードリーダー(読み取り機)

- ささしまライブ駅改札内と会場内両方のリーダー(★印)にIC乗車券等をタッチすると「10エコポ」プレゼント!

超小型モビリティの 走行体験

- 環境にやさしい超小型モビリティ。大学内のキャンパスモールで立ち乗り型の走行体験ができるよ! ※参加条件あり。



地区内交通規制、走行体験の参加条件、雨天時などの注意事項、関連イベント、交通エコポ、その他の詳細については、HP (<http://www.ido.city.nagoya.jp/machidukuri/>) でご確認ください。

体験しよう!
楽しもう!
これからの
「みち」と「まち」

名古屋の豊かな道路を活かして、
「安心・安全」環境にやさしい「賑わいのある」
人が主役の空間をめざす、
「みちまちづくり」が合い言葉。
これからの「みち」と「まち」を
考えてみませんか?



ミンチー



Zepp Nagoya

- ライブといえばココです!

オープンカフェ

- 青空の下でいつもと違う「みち」を体験!
- 地区内交通規制あり。
10月27日(土)・28日(日)
12:00~17:00



ラ・バーモ ささしま

- テナントクーポンの配布があるよ。



愛知大学

- 28日には愛知大学主催のオープンキャンパスを開催。(主に高校生対象10:00~15:00)



マチルダ



お楽しみが
いっぱいね!



「ミンチー」と「マチルダ」
名古屋市の「みちまちづくり」の
マスコットキャラクター。

イベント期間中は多数の来場者が予想されることから、お出かけは公共交通機関をご利用ください。

■みちまちウィーク2012
協力企業等

愛知大学 独立行政法人 国際協力機構(JICA) 中部国際センター ラ・バーモささしま
株式会社Zeppライブエンタテインメント 名古屋臨海高速鉄道株式会社(あおなみ線)

このチラシは古紙リサイクルを含む再生紙を使用しています。

